



ぼうざぶろう
**増田望三郎の
市議活動だより**

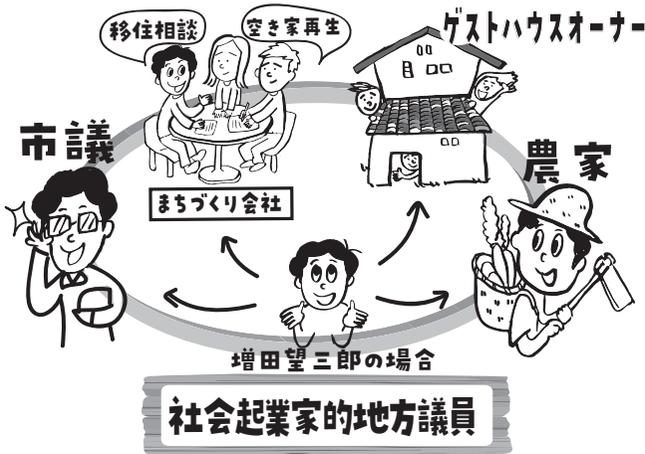
巻頭言

社会起業家的地方議員に！

11月に北海道議会議員広田まゆみさん主催のトークライブに招かれ北海道に行きました。トークライブのテーマは、「ゲストハウス（以下GH）と社会起業家的地方議員」でした。私がかねてから、GHオーナーと地方議員は親和性が高いと思っていました。GHオーナーも地方議員も、地域コミュニティ内外の人、物、事、情報が集まるので、様々な協働を生み出せる特性があります。議員の主要な舞台は議会ですが、もっと地域に出て、地域活性化や地域課題を解決する様々な市民活動や事業展開を生み出す「社会起業家プロデューサー」になる。これが私の目指す議員像です。

札幌のライブではGHからのまちづくりや政治とのつながりが浮かび上がり、参加した大学教授から「GHはもはや宿泊だけの場ではない、地域を変えていく可能性を秘めている。」との発言もありました。これからのGHは、地域ニーズに応えた託児所やフリースクールなど、宿以外の様々な機能を持った「半GH半X（以下エックス）」になっていくのでしょうか。同じく議員も議会の仕事を本軸に据えながらも、様々な派生した活動を展開していくようになるのではないのでしょうか。

旭川では、16年前の移住を後押ししてくれたキーワード「半農半X」の提唱者親塩見直紀さんとご一緒しました。半農半Xとは半自給の小さな農を営みながら、自分の特性Xを活かした仕事を行うライフスタイルのこと。他のパネラーの議員川原允さん、寺岡祐子さんも野外保育園を主宰する半議員半Xの人たちです。



半議員と言うと、「議員の仕事が中途半端に議員やってるのか！」と怒られそうですが、そうではありません。むしろ議員の仕事が一生懸命やっていると、議会内だけで解決しない課題がいかに多いかが分かります。市政課題は「議会できているんじゃない。現場で起きているんだ。」と言いたくなります。そしてその解決方策も市民活動やNPO、民間事業者などの力が必要なのです。それを市民

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近になるために、虹（= Rainbow レインボウ）の架け橋となるよう活動報告をお届けします。望三郎の活動はブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

●プロフィール
大分県出身 50歳。東京経由で安曇野に移住し16年目に。三郷小倉に妻と2人の子ども、妻の両親の3世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議、現在2期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

に任せるのがこれまでの議員でした。しかしこれからの議員は、自らも実行する行動派でなければ。それが社会起業家的地方議員です。私の場合、安曇野に移住し地域に根づいて、いい宿を創ろうと頑張っていたら、市政が視野に入り、議員に挑戦した。そして議員を一生懸命やっていたら、市政課題を認識し、行政だけでは解決できないことが分かり、それを取り組む民間が必要だと思った。「半農半GH」→「半GH半議員」へと展開し、そして今また、「半議員半まちづくり会社」へと思考が展開しつつあります。議員は議員、GHはGH、農業は農業と、それぞれを別個の

仕事として分けるのではなく、自分の持ち味や特性Xをいくつも繋げながら、社会起業家的地方議員でやっていきたいと思えます。

安曇野まちづくりトークのご案内

議会報告を兼ねて、安曇野のまちづくりを市民と議員がより近い車座で話し合う場を作っています。参加議員は望三郎と小林純子、林孝彦議員の3名です。子ども連れ歓迎。ぜひご参加ください。

♪日時：1月25日（土）am10:30～12:30
♪場所：豊科学習交流センターきぼう2階

サポーターからの応援メッセージその23



たかばやし けん
高林 賢さん（ひかりの学校 New Education School 代表）

望さんと深く関わらせて頂くようになったのは、2016年の春より望さんが小林純子さんと共に主催した「政治塾」への参加からでした。政治塾での学びは、全てが「実践で使える」事柄ばかりでした。「法的な根拠に則り、市民の必要を訴える」具体的な手法を私は学べました。この政治塾で学べたことは、そのような政治の実際と法的な事柄も多かったのですが、**もっと重要な学びは、「誰もが政治家」であるということでした。家族において、地域において、交友関係において、職場において、常に政治的な公平・公正・冷静かつ情熱的な概念が、自分自身や家族や友を助けることを学べました。**

「小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実である」との言葉がありますが、望さんはいつも小さな声にこそ忠実な人です。助けの必要を感じれば、いつでもそこへ駆けつけるのは、望さんが市議であるからではなく、「増田望三郎」として市議になる前からやってきた事です。だからみんなが望さんを大好きなのです。そう、望さんの全ての土台にいつも熱い愛があるのです。望さんは市議であろうとなかろうと、どこにいようと凄腕「政治家」なのです。今後、いづどんな立場であれ、望さんが、鷲が翼を張って自由に飛ぶように、また走っても弱らず、歩き続けても疲れぬようにと、望さんの活躍を祈っております。

《質問1》 移住者を呼び込む 空き家活用の提案

【解説】

市は「人口減少の克服と人口減少を見据えたまちづくり」を進めています。今回の一般質問はこれに焦点をあて、市の課題でもある空き家の利活用と掛け算にした移住促進策を提案しました。日本全体が人口減少に向かう中、単に我が市の人口を増やせばいいわけではありません。本市はなぜ移住促進を進めるのか、移住者と共にどんなまちづくりをしていくのかが問われています。

望市議 本市はなぜ移住を促進するのか。

市長 持続可能なまちづくりを進めるには、人口減少に歯止めをかける必要がある。移住者も子育てや自然豊かな住環境で生き生きと暮らせ、双方に多くのメリットがある。

望市議 農地付空き家は、家庭菜園で農ある暮らしを送りたい都会からの移住者にはうってつけの物件。農地取得要件の下限面積を下げて非農家でも取得可能にできないか。農的生活を求める移住者を小さな農の担い手に位置づけ、農地付空き家を購入してもらえば、空き家活用、農地保全、移住促進、前栽（せんぜ）畑のある豊かな生活者を増やす一挙三得、四得にもなる施策だが。

農業委員会 農業の経験不足が原因で耕作できなくなり、耕作放棄地が拡大したり、農地が分散して農地集積への弊害となる。また投機目的での取得が懸念される。他自治体の取組等も参考にし、関係部局と慎重に研究を進めていく。

市長 現地調査等を受けながら、農業委員会を含めた関係部局と協議する。

望市議 空き家を使っての小商い（ソーシャルビジネス）の創業は資金的な手軽

さもある。民家ならではの個性的な店が生まれ、地域の活力と安曇野市の魅力になる。「願う暮らしや夢にチャレンジできるまち安曇野」を掲げて、空き家を活用した創業支援で若年世代の移住促進を。

市部長 現在は空き店舗利用の補助制度がある。制度を検証し、空き家活用の研究をする。
望市議 移住者を呼び込む空き家活用についての所感は。

市長 重点施策である移住定住を促進する上で、空き家利活用は大変有効な手段で強化をする。民間活力も導入し、取り組みを進める。市組織の一元化も必要で体制を整える。



空き家を活用したカレー屋こだま食堂・松本市梓川

【望市議の思い・考え】

質問冒頭で市長に「移住の目的は何か？」と尋ねました。私も移住者なので、「なぜ人は安曇野に移住したいのか」と改めて考えました。それはこの安曇野に「光」を求めてやってくるのだと思います。この光という言葉、「未来」と言い換えてもいいです。土や緑が少ない都会での子育て、満員電車で往復3時間かけて通う仕事。人のつながりも希薄。そんな人たちが、明るく楽しい子育て、やりがいある仕事、コミュニティでの結びつき。明るい光、未来を求めてやってくるのだと思います。

この安曇野には先人が創ってきた光り輝くも

のがたくさんあります。その光を地の方たちが受け継ぎ守ってきましたが、そこに移住者も加わり、さらに輝く光、未来を一緒につくっていく。そんな思いで移住を呼びかけたいです。

自然保育議員連盟の設立と 自然保育園の視察

本年9月に長野県内の各市町村議員及び県議の有志で、長野県自然保育推進議員連盟を設立し、私は事務局を拝命しました。長野県内における子どもたちの健やかな成長のため、幼児期における自然保育の推進を議員の立場から行うことを目的としたもので、議員間の連携及び情報交換、県市町村に対する要望・提案活動、広報・広聴活動を行い、普及啓発を行うことを活動内容としています。

10月末には議連最初の実動として、穂高にある認可外保育施設「野外保育森の子」を視察しました。朝から雨模様で、「あいにくの雨になった…」と思いましたが、森の中にタープを張り、その下で野外食作りや木工、中には雨の中遊んでいるなど、子どもたちが思い思いの活動をしていました。自然保育の子どもたちには「あいにく…」は無いんですね。雨なら雨で、その環境の中で楽しむ子どもたち、保育者たちに、これが自然保育なのだなと感じました。保育主宰者、保護者との懇談会も行い充実した視察となりました。



自然保育議連の視察 穂高の森の子さんに

望三郎市議が行く!! 第23話 『望三郎 広報委員長に!』 出演: 望さんにじと、ピース

